

- 日米韓3か国は、昨年11月のプノンペン声明に基づく**北朝鮮のミサイル警戒データのリアルタイム共有**について、本年6月の日米韓防衛相会談の共同声明において、**本年末までに始動**することで合意。
- また、本年9月の日米韓防衛相電話会談において、**3か国共同訓練の定例化に向けて計画を策定・実行**することで合意。さらに、11月の日米韓防衛相テレビ会談で、**年末までに同計画を策定すべく調整を加速**することを確認。
- 今般、日米韓3か国の防衛相による共同プレス声明を以下のとおり発表し、**①北朝鮮のミサイル警戒データのリアルタイム共有に関するメカニズムが運用開始**したこと及び**②日米韓3か国の複数年の共同訓練計画を策定**したことを公表。

日米韓共同声明概要

1. ミサイル警戒情報のリアルタイム共有

- **北朝鮮のミサイル警戒データのリアルタイム共有メカニズム**について、運用能力に関する検証が終了したことを踏まえて、**メカニズムが運用開始に至った**ことを公表。
- このメカニズムは、2022年のプノンペン首脳会合及び2023年のキャンプ・デービッド首脳会合に基づき、**北朝鮮が発射したミサイルの脅威を探知し評価することを通じて、3か国の国民の安全を確保する能力を向上させるもの。**

2. 日米韓3か国の複数年の共同訓練計画の策定

- 日米韓3か国の共同訓練を、より体系的かつ効率的に実施していくため、**複数年にわたる日米韓共同訓練計画**を策定。